



ケイヨクシヨウケイヨクシヨ

博物館に  
行ってみよう!

# もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第15回

千葉県立中央博物館分館 海の博物館 (勝浦市)



外房

インタビュー

“中の人”に  
聞いてみました

# メインテーマは房総の海と自然 海の多様な世界を体感できる博物館

千葉県立中央博物館分館 海の博物館のメインテーマは、房総の海と自然です。このテーマに沿って、当館では海の生き物とその生息環境という視点で千葉の海の生物多様性、環境の豊かさを感じていただくための多彩な展示を行っています。

そのために、単に知識をお伝えするだけではなく、海の生き物に触れてもらい、その後に博物館の前に広がる海で自然を感じてもらう「フィールドミュージアム」の発想のもとに展示やイベントを行っています。つまり海というフィールドに出かけていくためのきっかけの場所としての役割も持っています。

千葉県は三方を海に囲まれ、黒潮と親潮の影響を受けるため、日本でも有数の多様な海洋生物が生息するエリアです。展示されている生き物の多くは実際にこの近場で獲れたもので構成されています。来館者の皆さんも、目の前の身近な海でこんな豊かな世界が広がっているんだということを感じていただけるのではないのでしょうか。

日頃あまり見ることのできない海の中や魚や鳥といった生き物など興味をそそる多くの展示物があるため、来館者の方々からもさまざまな質問が寄せられます。そんなとき私たちは「先生」という立場だけでなく、海が大好きな「仲間」として「一緒に自然を調べ、楽しんでいこう」という意識でお答えしています。我々研究員も皆さんの質問をきっかけに学ばせていただくことも多く、素晴らしい体験になっています。そのため、お子さんたちの質問に対しても知識そのものを教えるだけでなく、調べ方を教え、一緒に調べるといった気持ちでいつも接しています。「分からない」「おもしろい」と感じたら、どしどし研究員に質問してくださいね。

海やそこで生活する多様な生き物を新しい視点で見ることができる貴重な機会になると思います。皆さんもぜひご来館ください。



千葉県立中央博物館分館 海の博物館  
研究員 平田 和彦さん

## 千葉県立中央博物館分館 海の博物館とは？

千葉県立中央博物館分館 海の博物館は、1989年に開館した千葉県立中央博物館(千葉市中央区)の分館として1999年に開館しました。

中央博物館が千葉県全体の自然や人の営みを紹介するのに対し、海の博物館は千葉の活力や姿を紹介するために不可欠な「海」の分野を担当する施設です。「フィールドミュージアム」として来館者が実物に触れ、実際に野外のフィールドに出て自然を楽しめるよう、海のすぐ近くに建てられています。



### 青いイセエビ

2025年9月にいすみ市大原漁港で青いイセエビが水揚げされ、展示のために海の博物館が譲り受けました。ここまでメタリックに青い色をした個体は珍しく、このような色になった原因はよくわかっていないようです。

## インタビュー

“中の人”に  
聞いてみました

# 千葉の海の豊かさを体験 できる豊富な展示物

常設展示は、展示室とロビーで行っています。展示では房総の海と自然をメインテーマに、房総半島の海の自然や博物館周辺の自然を詳しく紹介しています。展示のほとんどが海の生き物や環境の多様性を伝える内容で構成されています。

展示されている生き物の多くは、千葉県で獲れたものです。マンボウや深海のサメなどもあり、海の豊かさを改めて感じることのできる展示でもあります。年に数回、深海の世界や磯の生き物、海鳥など海の生き物をテーマにした展示もあり、こちらも人気です。

また、展示に関してもう少しくわしい説明がほしい、と思う方には「展示室の歩き方」の解説も行っています。体験交流員が、約10分間で展示室の見所をご紹介するとともに、皆さんからのご質問にもお答えしますのでこちらもぜひご活用ください。くわしい時間などはお問い合わせください。



千葉県立中央博物館分館 海の博物館  
研究員 小林 大純さん

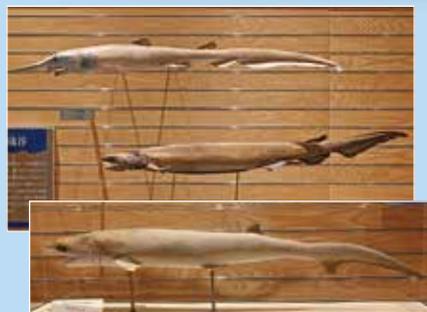


館内はジオラマや標本などでわかりやすく展示されています。海の生き物に関する観察や実験を行うコーナーもあり、野外の自然観察の方法についても紹介しています。

## 房総半島の海を自然を紹介する4つのエリア

展示室は大きく4つのエリアに分かれています。

「房総の海」は房総半島の海の特徴と、そこに生きるさまざまな生き物を紹介しています。「さまざまな海の姿」は房総半島の多様な自然環境の代表例として勝浦、館山、東京海底谷、九十九里浜、夷隅川の河口干潟の5カ所をジオラマや映像などで紹介しています。「博物館をとりまく自然」は博物館周辺の自然の様子を、豊富な写真や標本、水槽を使って紹介しています。「海と遊ぼう」は展示室と野外との橋渡し、海の生き物観察や実験を行うコーナーです。



▲「さまざまな海の姿」にあるサメの標本。東京湾の出入口にあたる浦賀水道には東京海底谷があり、「生きた化石」として知られるサメの仲間のラブカやミツクリザメなども住む、深海の世界が広がっています。



▲「さまざまな海の姿」にあるジオラマ。館山の海底が再現されていて水深20m付近、8月の様子です。多くの魚の繁殖期で、産卵している姿を観察することができます。



▲「博物館をとりまく自然」の標本。海の博物館の周辺には、鶴岡理想郷のような照葉樹林もあり、海洋生物以外にも陸鳥や昆虫、植物など、多彩な生き物を見ることができます。



▲「海と遊ぼう」には多くの貝が展示されています。見たことのあるような貝殻から、「えっ!これも貝の仲間?」と驚くようなものまでその多彩さに驚かされます。

●問い合わせ／千葉県立中央博物館分館 海の博物館  
勝浦市吉尾123 TEL.0470-76-1133

# すごい!このホンモノを見逃すな!

## 勝浦のカジメ海中林

これ見て!



「さまざまな海の姿」コーナーの一角にある、巨大な海藻が揺れる大きな水槽のジオラマ。その隣には数百の小さな標本が並んでいます。これはコンブの仲間<sup>かこん</sup>で、カジメの仮根(根のような部分)とその中に実際に住んでいた生き物たちの標本です。

カジメは高さ2mに達する大型の海藻で、温帯の海で見ることができます。群がって生える様子が陸上の林に似ているため海中林と呼ばれています。勝浦沿岸の海中にも、カジメ海中林が広がっています。

カジメ海中林は光合成によって、多くの有機物を生産し、海中林や仮根はたくさんの生き物たちの絶好の住み家であり、産卵場としても機能しています。仮根にはカニ、ゴカイ、ホシムシ、カイメン、ヨコエビなど



多彩な生き物が暮らしていて、またこれを餌にする魚も周辺に多く暮らしています。地味な見た目の海藻の根っこで、説明がなければ見逃してしまうような存在なのですが、こうしてみるとその素晴らしい役割、そして海の凄さ、豊かさが見える存在でもあったのです。

## イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

海の博物館では、常設展示のほか定期的に企画展示や参加型イベントも開催しています。



### マリンサイエンスギャラリー

#### 【うみ鳥つづ2-海鳥と旅する食物連鎖の世界-】

海鳥を取り巻く食物連鎖に着目して、海洋生物の多様性や、生態系の中で海鳥が果たす役割を紹介しています。2026年5月10日(日)まで開催しています。



#### 【磯・いそ探検隊(フィールドトリップ)】

研究員の案内で、博物館の目の前の海岸で身近な磯の生き物を観察します。春から夏にかけて潮汐に応じて開催しており、磯の観察初心者でも気軽に楽しめます。

### 「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第15回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、「さまざまな海の姿」コーナーで根が多様な生き物の暮らす場所になっている大きな海藻の名前は何でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① カジカ
- ② カジキ
- ③ カジメ

取材協力・撮影協力・写真提供/千葉県立中央博物館分館 海の博物館

プラスαで、未来をとともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント  
@keiyobk\_official



X 公式アカウント  
@keiyobkofficial



正解は→③ カジメ

2025.3  
(次回発行予定/  
2026年4月20日)